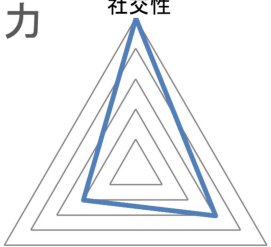
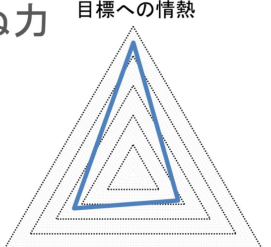
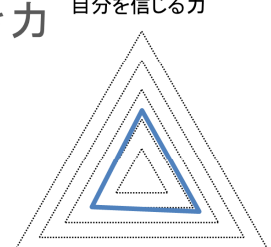


1 「さ・ぬ・き力」(非認知能力)に関する子供(69名)の実態

授業づくりの重点項目		
<p style="text-align: center;"><b>さ力</b>      社交性</p>  <p style="text-align: center;">共感性                      協調性</p> <p>「社交性」の自覚度が高い。休み時間や給食でも困っている友達に自分から声をかける子供が多い。隣のクラスの友達ともすぐに打ち解け、互いに意見を出し合う姿が見られた。特別支援学校との交流でも、進んで質問したり、感想を伝えたりするなど意欲的な姿が見られた。</p> <p>「共感性」の自覚度は低い。「掃除や活動の時、みんなが嫌がるようなことも進んでするようにしている」の質問項目の値が低いことなどから、周りの友達のことよりも自分の感情を優先させてしまう子供がいることが分かる。</p>	<p style="text-align: center;"><b>ぬ力</b>      目標への情熱</p>  <p style="text-align: center;">粘り強さ                      忍耐力</p> <p>「目標への情熱」の自覚度が高い。特に「目標を立てて、それを目指して頑張っている」の質問項目の値が高い。前期の特別支援学校との交流の際にも、自ら作りたいおもちゃを考案し、約3ヶ月近く情熱をもって作り続ける姿が見られた。</p> <p>「粘り強さ」「忍耐力」の自覚度は低い。「粘：苦手なことにも自分から挑戦している」「忍：失敗を恐れずに行動しようとしている」の質問項目の値が低いことから、苦手なことや失敗への抵抗感が強く、それらにチャレンジすることに苦手意識をもっている子供が少なくないことが分かる。</p>	<p style="text-align: center;"><b>き力</b>      自分を信じる力</p>  <p style="text-align: center;">回復力                      自制心</p> <p>き力は自覚度が全体的に低い。自分を信じる力では「今の自分のことが好きである」の質問項目の値が低く、自制心では「いやなことがあってもすぐに気持ちを切り替えられる」の質問項目の値が低い。このことから、自信がなく、嫌なことがあった時はすぐには前向きに行動できない子供がいることが分かる。係活動など興味・関心があることには、自信をもって意欲的に取り組んでいる子供が多いが、苦手な教科などには前向きに取り組めていない子供もいる。回復力が低いのは、ぬ力の実態にも表れている。</p>

2 教科に関する子供の実態

- ・ 4月当初(前期の学習前)障害がある人に対してどんなイメージをもっていましたか。  
 「悲しい」「かわいそう」(12人)、「大変」「不便」「不自由」(8人)などのように、障害に対してネガティブなイメージをもっている子供の方が多い。
- ・ 障害のある人が身近にいますか。  
 友人(6人)      親戚(6人)      自分自身(4人)      家族(3人)      近所の人(3人)

3 個別支援が必要な子供の実態

- A児…自分から話しかけるなど友達とのコミュニケーションを苦手としているが、仲のよい友達や教師が間に入ることで自分の考えを伝えることができる。
- B児…書くことに苦手意識をもっているが、書く内容がはっきり分かれば書くことができる。

# 第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

## 「つながる ひろがる 人と人 ～障害理解への一歩～」

学習指導者 T1 米谷 直樹 ・ T2 安岐 美佐子



### 1 本単元で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【授業の詳細】

本単元では、本校が目指す子供像である「自主・自立」「共生・協働」「探究・創造」に基づき、「障害への理解を深め、誰もが幸せに暮らせる社会を実現するために自分にはどのようなことができるかを考える」という探究課題を設定する。単元の始め子供たちは、前期に行った特別支援学校の知的障害のある友達との交流を振り返る活動を通して、障害のある人への関心を高め、「障害についてもっと詳しく知って交流をしたい」という思いから、様々な障害について調べていく。調べたい障害ごとのグループに分かれた子供たちは、障害のある人が抱えている困り感やそれらの解決策などの情報を収集し、自分たちにできることや大切なことを見つけるために整理・分析する。例えば、視覚障害グループでは困り感を紹介し合った後、『電気自動車にひかれそうになる』は移動の時の困り感だ」「移動なら『電車のホームに落ちてしまう』もそうだと思うよ」「クレジットカードの違いを見分けられない」と『商品がどこにあるか分からない』は買い物する時に困ることだね」「買い物は食事に関係するから食事のまとまりにしよう」「食事で困ることは他にもありそうだな」などのように困り感の共通点や差異点に着目して分類する対話などを繰り返しながら、さらに必要な情報を調べ直し、自分の選んだ障害について探究していく。そして、集めた情報を友達と伝え合って様々な障害について理解を深めた子供たちは、実際に関わってみたいという思いを高め、視覚障害や肢体不自由の人から直接話を聞いたり、スポーツを一緒に楽しんだりするなどの交流をしていく。このように、障害について調べたり、障害のある人と交流したりした子供たちは、障害のある人の困り感には共通点があることに気付いたり、お年寄りや幼児など他の福祉分野における課題に目を向けたりしながら、社会にいる多様な人々と自分がどう関わっていくか考えていく。

### 2 小単元計画と働きかけの概要 (本時 10/17)

㊦：価値付け

次	学習の流れ	働きかけ
一 二 三	<p>①～③ 障害について調べる計画を立てよう</p> <p>前期活動を振り返ったり、様々な障害に目を向けたりする活動から後期活動の見通しをもつ。調べたい障害ごとにグループをつくり、困り感や解決策など知りたいことを出し合って調べる計画を立てる。</p>	<p><b>見通し</b> 情【未来ボード】④⑨⑩⑮⑰</p> <p>単元のはじめに考えた理想の未来像に近付けていることを補助黒板を使って視覚化し、それを確認する場を設ける。㊦理想の未来の実現に向けて本時の課題を解決しようとしている姿を即時的に称賛する。</p>
	<p>④～⑧ 障害について調べよう</p> <p>インターネットや、専門家、障害がある人へインタビューを通して調べたり、障害者体験をしたりするなどして、知りたい情報を集める。</p>	<p><b>行動</b> 社【つながりシート】④～⑭</p> <p>シンキングツールと付箋を用いてそれぞれの考えを可視化し、互いの考えの異同を捉えやすくすることで、多くの考えに触れられるようにする。㊦多くの考えに触れたことで解決できたことを即時的に称賛する。</p>
	<p>⑨⑩⑪ 調べたことを紹介し合って、整理しよう</p> <p>調べた情報を持ち寄り、グループの友達と困り感についてシンキングツールを使って整理・分析し、さらに調べたい情報がないか話し合うことで障害のある人への理解を深める。解決策についても話し合い、家庭学習の時間なども使って調べ直す。</p>	
	<p>⑫～⑭ 調べたことを発表するために分かりやすくまとめよう</p> <p>模造紙やプレゼンテーションソフトなど発表方法を決め、絵や写真を使って分かりやすくまとめ、発表の練習をする。</p>	<p><b>振り返り</b> 信【未来カード・タイム】</p> <p>②～⑰ 自分の頑張りを探究と協働の二つの観点で振り返り、グループの友達に花丸とコメントをもらうことで、成功体験想起の場を設ける。㊦頑張りに気づき、前向きに取り組もうする姿を即時的に教師が称賛する。</p>
	<p>⑮⑯ 調べたことを発表しよう</p> <p>各グループの発表を聞き合い、自分の班との共通点を見付け、感じたことについて話し合い、様々な障害についての理解を深める。</p>	
	<p>⑰ 発表を聞いて気付いたことをまとめよう</p> <p>障害について調べたり、発表し合ったりして感じたことを整理し、障害のある人ともっと関わりたいという思いを強めていく。</p>	

3 本時の学習

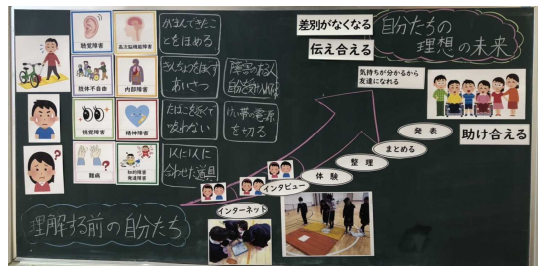
目 標	障害について調べたことを友達と交流しながらシンキングツールにまとめたり，他のグループとシンキングツールを見せ合ったりすることで，障害がある人が抱える困り感について整理し，障害についての理解を深めることができる。
--------	---

学習活動と働きかけ	主な子供の意識				
見 通 し	1 学習課題を確認する。 【未来ボード】 【目標への情熱】	他のグループに分かりやすく伝えるために紹介し合って整理します。		理想の未来に近づくために，紹介し合って整理します。	
		分かりやすく発表し合っているんな障害について理解できれば，みんなが助け合える理想の未来につながるね。その準備として今日は整理しよう。			
調べたことを紹介し合って，整理しよう					
行 動	2 同じグループ内で調べたことを紹介し合い，整理する。 【つながりシート】 【社交性】	先生達の例のように視覚障害について調べたことをまずは紹介しよう。			
		電気自動車の音が小さすぎて，轆かれそうになることがあるらしいよ。これは「移動」のグループだね。	電車のホームに落ちる事故があることを調べたよ。これも「移動」グループだと思うよ。	「移動」のグループなら，階段がどこまであるか分からずに困る，もこのグループに入りそうだよ。	飲み物をつぐときに適切な量が分からず，こぼしてしまいうらしいよ。これは「食事」のグループだと思う。
		お風呂の時にリンスとシャンプーが見分けられない，これは入浴のグループだと思うよ。	入浴のことは僕は調べていなかったよ。お風呂でも困ることはあるんだね。	財布などを落とす時に近くにあるのに気付かないことがあることが多いよ。	財布をなくすのは何のグループに入るのかな。「その他」グループに入れておこう。
		もっと他のグループでも仲間分けしてみよう。			
		「移動」する時には，たくさん困ることがあることあったよ。視覚障害の人は移動で困ることが多いんだ。		「食事」の困ることは少ないけど，もっとありそうだね。食べる時の困り感についても調べてみよう。	
		他のグループはどんな困り感を見付けているんだろう。			
振 り 返 り	3 他のグループのシートを基に整理する。 【つながりシート】 【社交性】	視覚障害の人はやっぱり移動するときに困ることが多いみたいだね。		聴覚障害の人は人とコミュニケーションをとる時に困ることが多いんだ。	
		視覚障害の人は人と話をする時に困ることは本当はないのかな。			
		もっと調べたいことが見付かったよ。			
	4 本時の学習を振り返る。 【未来カード】 【自分を信じる力】	友達と協力して，情報を整理したり，分析したりすることができたよ。		気付きや発見がたくさんあったし，次に調べたいことも見付かったよ。	
		〇〇さんは仲間分けする時に僕とは違った視点で考えることもできていたよ。		〇〇さんは，確かに振り返りカードに気付きや発見をたくさん書くことができていたね。	

評 価	自分が調べている障害の困り感や解決策について友達と伝え合う中で，互いの情報の共通点や差異点に着目して，困り感や解決策について観点ごとに分類することで，さらに詳しく調べたいことを見付けて理解を深め，次の時間にしたいことを見いだしている。 【方法：様相・記述】
--------	--

～見通し～ 情【未来ボード】(4・9・11・15・17時間目)

一次で話し合った「様々な障害について学ぶと、どんな理想の自分になれるのか」に対する答えを右図のように「理想の未来」としてまとめ、単元全体を通して補助黒板に掲示する。そして、どれくらい理想の未来に近づいているかを未来ボードを使いながら子供たちに説明させ、見付けた解決策も教師が板書していく。このようにそれぞれの障害について知っていることが増えていくことで、「理想の未来」に自分達が近づいていることを感じられるようにし、目標への情熱をもって学習に取り組めるようにする。本時は、「何のために紹介し合って整理するのですか」と整理する目的を問い、紹介し合って整理することが分かりやすい発表、さらには理想の未来に近づくことを捉えさせ、目標への情熱を發揮させる。㊟教師は、整理・分析することで理解が深まり、理想の未来にさらに近づくことに気付いている子供を称賛する。T2活動の見通しがもちにくいと思われる子供の近くで待機し、補助黒板などを使って、本時の目的が理解できるように支援したり、挙手がなかった子供の考えを聞いたりする。



【未来ボード】

本時は、「何のために紹介し合って整理するのですか」と整理する目的を問い、紹介し合って整理することが分かりやすい発表、さらには理想の未来に近づくことを捉えさせ、目標への情熱を發揮させる。㊟教師は、整理・分析することで理解が深まり、理想の未来にさらに近づくことに気付いている子供を称賛する。T2活動の見通しがもちにくいと思われる子供の近くで待機し、補助黒板などを使って、本時の目的が理解できるように支援したり、挙手がなかった子供の考えを聞いたりする。

～行動～ 社【つながりシート】(4～14時間目)

本単元では、クラゲチャートやKWLなどのシンキングツール(教師が課題に応じて選ぶ)に各自の考えが書かれた付箋を貼って互いの思考を可視化し、考えやその理由の異同を分かりやすくし、多様な考えに触れることで社交性を發揮して交流しやすくし、解決へと導く。



【つながりシート】

本時は、付箋紙と複数のクラゲチャートを用いる。前時の段階で子供たちは、自分が調べた障害がある人が抱えている困り感(青)と解決策(黄)をそれぞれの付箋に書いている。また、それらを整理する方法として生活場面をヒントに6つの観点(食事・移動・排泄・入浴・睡眠・コミュニケーション)を見付け、共通理解している。まず、困り感について簡潔に説明しながら観点が書かれたつながりシートに貼り付けていき、自分とよく似た困り感が出た時は同じシートに貼ることで分類していく。次に、分類できたものを見ながらもっと調べる必要があることや、「その他」のグループの共通点などについて考える。その後、他のグループの考えも参考にすればより整理・分析が進むかもしれないことを確認し、社交性を發揮しながら様々な考えに触れながら活動していく。㊟教師はグループ内外の様々な友達の考えに触れることで整理・分析ができていく姿を交流時に称賛する。さらに、活動3の終わりに、様々な友達と議論したことで調べたい情報が見付かったグループを選んで、社交性を發揮したことで課題を解決できた姿を称賛する。T2精神障害など、調べる情報が少ないと思われるグループに積極的に加わり、活発な議論を促す支援を行う。

本時は、付箋紙と複数のクラゲチャートを用いる。前時の段階で子供たちは、自分が調べた障害がある人が抱えている困り感(青)と解決策(黄)をそれぞれの付箋に書いている。また、それらを整理する方法として生活場面をヒントに6つの観点(食事・移動・排泄・入浴・睡眠・コミュニケーション)を見付け、共通理解している。まず、困り感について簡潔に説明しながら観点が書かれたつながりシートに貼り付けていき、自分とよく似た困り感が出た時は同じシートに貼ることで分類していく。次に、分類できたものを見ながらもっと調べる必要があることや、「その他」のグループの共通点などについて考える。その後、他のグループの考えも参考にすればより整理・分析が進むかもしれないことを確認し、社交性を發揮しながら様々な考えに触れながら活動していく。㊟教師はグループ内外の様々な友達の考えに触れることで整理・分析ができていく姿を交流時に称賛する。さらに、活動3の終わりに、様々な友達と議論したことで調べたい情報が見付かったグループを選んで、社交性を發揮したことで課題を解決できた姿を称賛する。T2精神障害など、調べる情報が少ないと思われるグループに積極的に加わり、活発な議論を促す支援を行う。

～振り返り～ 信【未来カード・タイム】(2～17時間目)

単元全体を通して、探究と協働それぞれの観点に丸を付け、分かったことや次したいことを記述するようにすることで、「自分を信じる力」を發揮しながら振り返りを書けるようにする。さらに、グループの友達にも今日一番できていたと思う観点到に赤で花丸を付けてもらい、コメントをもらうことで、自分自身の頑張りにより気付けるようにする。㊟教師は友達から花丸やコメントをもらったことで、自己評価に自信をもったり、新たな自分の頑張りにより気付けたりして、自信を高めている子供を称賛する。T2B児のような書くことに抵抗がある子供に、言葉でのやりとりをしてから振り返りを書かせるようにしたり、代筆したりすることで、気質に応じた振り返りができるようにする。

未来カード		4年( )組( )		
日	目的	探究する力(できたら○)	協力する力(できたら○)	分
9	( )	自分で調べたいことを見つけた。	自分から進んで学習に取り組んだ。	
		必要な情報を調べられた。	実行力や発想力を発揮し込められた。	
		情報を整理し、分かりやすくできた。	友達と力を合わせて活動できた。	
		実行力や発想力があがり、それらをもとめられた。	友達と協力して考えた。(考えようとした。)	
10	( )	自分で調べたいことを見つけた。	自分から進んで学習に取り組んだ。	
		必要な情報を調べられた。	実行力や発想力を発揮し込められた。	
		情報を整理し、分かりやすくできた。	友達と力を合わせて活動できた。	
		実行力や発想力があがり、それらをもとめられた。	友達と協力して考えた。(考えようとした。)	
友達のがんばっていた項目1つに花丸を2つ、コメントを書く。				
友達からコメント				

【未来カード】